

◆屏風の大唐犬

屏風といえば、わが国の城郭には必ずといっていいほど置かれ、贅を尽くした豪華なものが作られてきた。だが名作は数あれど、僕が好きなのは、カントー地方、赤犬寺にある大唐犬——ウインディの屏風だ。

そこに描かれたさながら生きているような雄大なウインディの姿を見た時、一発で惚れ込んでしまった。そして何より、それに付随した伝説を聞いた時、ますますこの屏風が好きになった。それは以下のような話である。

昔、この寺がそこそこに大きくなり始めた頃、とある高名な絵師に屏風の製作を依頼した。住職は竹林に強そうな獣——ポケモンを一匹、描いてくれるように注文したのだが、竹林を描き終えた時点で絵師は行方をくらましたという。途方にくれた住職であったが、竹林のそれ自体はよく出来ており、そのまま使う事にした。

事が起こったのはそれから一年程後の事であった。寺に一匹の大唐犬が逃げ込んできた。突然、風のように走ってきた大唐犬は住職に言ったのだった。

「私の毛皮を目当てに野蛮な侍達に命を狙われている。いつもならばこの足の速さで振り切れるが、罨にかかり怪我をしてしまった。どうかここに匿って欲しい」

住職は困った。大唐犬はとにかく身体が大きい、この寺に匿って、隠しきれるかどうか。だが、大唐犬が言った。

「いいや、隠れるにはここが一番いいのだ。私は知っているぞ」

そう言って、土足でどこどこと寺の中に上がり込んでいってしまった。足跡を追いかけていって住職は驚いた。

なんと、竹林だけだった屏風に大唐犬が描かれているのではないか。足跡は屏風の前で消えている。

「ここに大唐犬が来なかったか」

足跡をすっきり消した頃になって、火の馬にまたがった侍達がやってきたが、住職は知らぬ存ぜぬを通した。

「はて、大唐犬ですか。こちらには来ませんでした。この前、屏風に描いて貰ったのならいますけれどね」

こうして、大唐犬は難を逃れたのだった。

大唐犬は怪我をしていた為なのか、屏風に入ったまま出て来なかった。やがて、寺に素晴らしい屏風があると世間で話題になり、寺にはよく訪問客が来るようになった。信者も増えて栄えたという。

さて、屏風に入ったまま、出てこなかった大唐犬だが、ある時、一度だけ抜け出した事があるという。それはとある旅の若侍が寺に寄った時の事だ。若侍は密書を携え、道を急いでいた。

だが、追っ手がかかり、寺に助けを求めたのであった。

「早くこの事をお殿様に伝えなければならないのです」

侍はそう言ったが、追っ手は寺を包囲している。その時どこからか、話は聞いたと声が聞こえた。振り返るとそこには大唐犬の屏風。にわか絵が動き出し、大唐犬が屏風から抜け出した。そうして若侍をひょいっとくわえ、自らの背中に乗せると風の如く走り出したのだった。すっかり怪我の治った大唐犬の走る速度には誰も追いつけず、若侍は無事に城に辿り着く事が出来た。その後、この事が殿様の耳に入り、使者がやってきて、褒美の品々を賜ったという。

絵や屏風からポケモンが抜け出す話はこの他にも各地に伝わっている。特に名高い絵師の作品にはこういう伝説が多い。

「屏風っていうのは一種のモンスターボールなのかもしれませんね」

そう言って、屏風のウインディを眺めながら今の住職さんは笑ったのだった。